



「ウィズ・コロナ」の スカウティングを实践しよう！

新しい生活様式を实践するスカウト活動

(2022.7.22 Ver.2)

日本ボーイスカウト福岡県連盟

指導者ならびに保護者のみなさまへ

穏やかな日々というのは、決して約束されたものではなく、時に荒波や暴風が吹き荒れ、これまでも度々困難に立たされてきました。現在、新型コロナウイルス感染症によって、その困難のまっただ中にあります。

しかし、こうした中でも、持続的にスカウトの自発的な活動を保障していくため、スカウト活動における感染および拡大のリスクを可能な限り低減した上で、活動を継続していく必要があります。

本県連盟では日本連盟の方針並びに国内の指針に準拠しつつ、他団体の動向も見ながら、スカウト活動におけるより具体的な事項について参考となるようこのガイドを作成したものです。各団・各隊におきましては、このガイドを参考にしつつ安全な活動に努めていただきますようお願いいたします。

日本ボーイスカウト福岡県連盟

県コミッショナーチーム

1. スカウトへの指導

スカウト活動における一番の感染リスクは、指導者の目が届かない所でのスカウトの行動です。活動を再開するに当たり、まずは、スカウトが本感染症を正しく理解し、感染のリスクを自ら判断し、これを避ける行動をとることができるよう、「新型コロナウイルス感染症の予防」資料等を活用して感染症対策に関する指導を行うことが必要です。

また、スカウトには、感染症対策用の持ち物として、一般的には次のものが必要となります。

【各自に必要な持ち物】

・清潔なハンカチ・ティッシュ、マスク

・唾液等の体液が付着した食器類、使用したティッシュペーパーを入れて持ち帰るためのビニル袋(宿泊を伴わない場合)



文部科学省 HP 掲載

2. 基本的な感染症対策の実施

感染症対策の 3つのポイントを踏まえ、取組を行います。

- ・ 感染源を絶つこと
- ・ 感染経路を絶つこと
- ・ 抵抗力を高めること

(1) 感染源を絶つこと

活動フィールドで感染源を絶つためには、外からウイルスを持ち込まないことが重要です。特に、感染経路不明の感染者が多数発生しているような地域においては、スカウト関係者及びその家族の健康観察を徹底するようにします。

①発熱等の風邪の症状がある場合等には活動に参加しないことの徹底

発熱等の風邪の症状がある場合には、スカウトも指導者も、自宅で休養することを徹底します

②活動時の健康状態の把握

集合訓練を行う際は、スカウト・指導者の検温結果及び健康状態を把握します。

集合時の健康状態の把握には、「健康観察表」などを活用します。

③活動時に体調不良者が出た場合

活動中にスカウトおよび指導者が体調不良となった場合は、速やかに帰宅させるようにします。

団においては、体調不良者発生時に速やかに保護者が迎えに来られる体制づくりや感染症および熱中症を含めた「団の危機管理マニュアル」の再構築を行ってください。

（２）感染経路を絶つこと

新型コロナウイルス感染症は、一般的にはエアゾル感染、飛沫感染、接触感染で感染します。閉鎖空間で、近距離で多くの人と会話するなどの環境では、咳やくしゃみなどの症状がなくても感染を拡大させるリスクがあるとされています。感染経路を絶つためには、

①手洗い、②咳エチケット、③消毒

が大切です。

エアロゾル感染：飛沫（ひまつ）よりも細かい５マイクロメートル（0.005 ミリ）未満の粒子がしばらくの間空気中を漂い、その粒子を吸い込んで感染します。

２メートル以上の離れた距離にまで感染が広がる可能性があります。

飛沫感染：感染者の飛沫（くしゃみ、咳、つばなど）と一緒にウイルスが放出され、他の方がそのウイルスを口や鼻などから吸い込んで感染します。

接触感染：感染者がくしゃみや咳を手で押さえた後、その手で周りの物に触れるとウイルスがつきます。他の方がそれを触るとウイルスが手に付着し、その手で口や鼻を触ると粘膜から感染します。



厚生労働省ホームページより

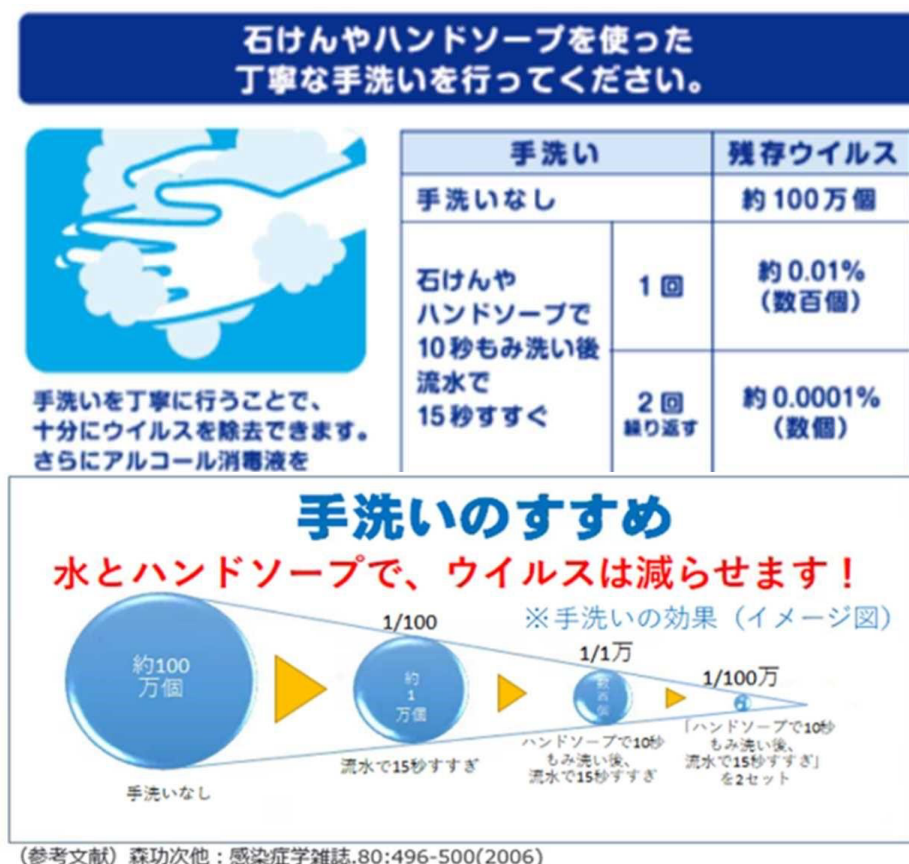
①手洗い

接触感染の仕組みについてスカウト等に理解させ、手指で目、鼻、口をできるだけ触らないよう指導するとともに、接触感染を避ける方法として、手洗いを徹底します。様々な場所にウイルスが付着している可能性があるので、外から屋内の活動場所に入る時やトイレの後、野外調理・昼食の前後など、こまめに手を洗うことが重要です。手洗いは30秒程度かけて、水と石けんで丁寧に洗います。また、手を拭くタオルやハンカチ等は個人持ちとして、共用はしないように指導します。

活動場所に来たら、まず手洗いを行うよう指導します。戸外・野外であれば、手指用の消毒液は、流水での手洗いができない際に、補助的に用いて構いません。しかし、基本的には流水と石けんでの手洗いを指導します。

また、石けんやアルコールを含んだ手指消毒薬に過敏に反応したり、手荒れの心配があったりするような場合は、流水でしっかり洗うなどして配慮を行います。

なお、野外活動における消毒液の携帯は、個人それぞれが持つことが望ましいです。個人装備として、携帯できる消毒液の準備を行ってください。



②マスクの着用

活動においては、近距離での会話や発声等が必要な場面も生じうることから、飛沫を飛ばさないよう、スカウト及び指導者は、本来的には常時マスクを着用することが望ましいといわれています。

ただし、活動の特性上、次の場合には、マスクを着用する必要はありません。

- 十分な身体的距離が確保できる場合は、マスクの着用は必要ありません。
- 野外で会話が少ない活動の場合は、マスクの着用の必要はありません。
- 熱中症などの健康被害が発生する可能性が高いと判断した場合は、マスクを外してください。

※夏期の気温・湿度が高い中でマスクを着用すると、熱中症のリスクが高くなるおそれがあります。マスクを外す場合には、できるだけ身体的距離を保つ、近距離での会話を控えるようにするなどの配慮をすることが望ましいですが、熱中症も命に関わる危険があることを踏まえ、熱中症への対応を優先させてください。

※マスクの取り外しについては、活動の態様やスカウトの様子なども踏まえ、現場で臨機応変に対応することが重要です。

※スカウト本人が暑さで息苦しいと感じた時などには、マスクを外したり、一時的に片耳だけかけて呼吸したりするなど、自身の判断でも適切に対応できるように指導します。

正しいマスクの着用



① 鼻と口の両方を
確実に覆う



② ゴムひもを
耳にかける



③ 隙間がないよう
鼻まで覆う



屋外・屋内でのマスク着用について

- マスク着用は従来同様、基本的な感染防止対策として重要です。
一人ひとりの行動が、大切な人と私たちの日常を守ることに繋がります。
- 屋外では、人との距離（2m以上を目安）が確保できる場合や、
距離が確保できなくても、会話をほとんど行わない場合は、
マスクを着用する必要はありません。
- 屋内では、人との距離（2m以上を目安）が確保できて、かつ
会話をほとんど行わない場合は、**マスクを着用する必要はありません。**



【屋外】	距離が確保できる	距離が確保できない
会話をする	マスク必要なし	マスク着用推奨
会話をほとんど行わない	マスク必要なし 公園での散歩やランニング、サイクリングなど	マスク必要なし 徒歩や自転車での通勤など、屋外で人とすれ違う場面

【屋内】	距離が確保できる	距離が確保できない	通勤ラッシュ時や人混みの中ではマスクを着用しましょう
会話をする	マスク着用推奨 ※十分な換気など感染防止対策を講じている場合は外すことも可	マスク着用推奨	
会話をほとんど行わない	マスク必要なし 距離を確保して行う 図書館での読書、芸術鑑賞	マスク着用推奨	

高齢の方と会う時や病院に行く時は、マスクを着用しましょう。
体調不良時の出勤・登校・移動はお控えください。



夏場は、熱中症防止の観点から、屋外でマスクの必要のない場面では、マスクを外すことを推奨します。

マスクに
関するQ&A



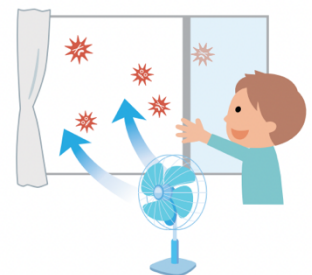
③屋内での換気

屋内で活動する場合、エアロゾル感染を防ぐには、換気が重要です。ただし、夏場は家電などからの発熱や日射侵入により、室内の温度が外気よりも高くなるため、エアコンや扇風機を活用して熱中症を予防することが必要です。

可能であれば、室温 28℃以下を確保できる範囲で、防犯に注意しながら、5センチから 15 センチを目安に 2 か所の窓を常時開放します。常時換気が難しい場合は、30 分に 1 回を目安に、数分間窓を全開にします

窓がある場合

- 風の流れることができるよう、**2方向の窓を、1回、数分間**程度、**全開**にしましょう。換気回数は**毎時2回以上**確保しましょう。
- 窓が1つしかない場合でも、入口のドアを開ければ、窓とドアの間に空気が流れます。扇風機や換気扇を併用したり工夫すれば、換気の効果はさらに上がります。



機械換気がある場合

- 窓がない施設でも、建物の施設管理者は、法令により感染症を防止するために合理的な換気量を保つような維持管理に努めるよう定められています。

注)ビル管理法により、不特定多数の方が利用する施設では、空気環境の調整により、一人当たり換気量(毎時約 30m³)を確保するよう努めなければなりません。

- したがって、地下や窓のない高所の施設であっても、換気設備(業務用エアコン等)によって換気されていることが通常のため、過剰に心配することはありません。
- しかし油断は禁物です。換気量をさらに増やすことは予防に有効です。冷暖房効率は悪くなりますが、窓やドアを開けたり、換気設備の外気取入れ量を増やしましょう。また、一部屋当たりの人数を減らしましょう。
- 通常の家用的エアコンは、空気を循環させるだけで、換気を行っていません。別途、換気を確保してください。また、一般的な空気清浄機は、通過する空気量が換気量に比べて少ないことから、新型コロナウイルス対策への効果は不明です。

(3) 抵抗力を高めること

新型コロナウイルス感染症に限らず、身体抵抗力を高めることは、健康な生活を送る上で大切です。特に夏は、暑さによって身体抵抗力が下がりがちになっています。活動を元氣に行うためにも体力・身体抵抗力を維持するために、適度な運動・質のよいバランスのとれた食事・十分な睡眠を日頃から心がけさせるように、ボーイスカウト以上には、スカウティング・フォア・ボーイスも引用しながら、指導するようにしましょう。

① 適度な運動

散歩やストレッチなどの適度な運動は、血行を良くし、体温を上げて体力・身体抵抗力が正常に働きやすい身体の状態をつくれます。また、運動をすることでストレスの解消にも繋がります。

② 質のよいバランスのとれた食事

日々の食事は、質の良いバランスのとれた食事を心がけましょう。

- ・ 主食(ご飯・パン・麺類)
- ・ 副菜(野菜・きのこ・いも・海藻料理など)
- ・ 主菜(肉・魚・卵・大豆料理など)
- ・ 牛乳・乳製品
- ・ 果物

これらをまんべんなく食べ、水分をしっかりと摂るようにしましょう。

1日に「何を」「どれだけ」食べると良いかの目安をイラストでわかりやすく示した「食事バランスガイド」が厚生労働省のホームページに載っていますので、ぜひ参考にしてください。

③ 十分な睡眠

身体抵抗力が正常に働くためには、自律神経がバランスよく機能していることが重要です。

交感神経は活動が活発になる昼間やストレスを感じた時に優位に働き、副交感神経は主に夜間やリラックスしているときに優位に働きます。副交感神経は、身体を回復させ、内臓の機能を高め、身体抵抗力を正常にする作用がありますので、しっかりと睡眠をとり、自律神経のバランスをとることが大切です。

3. 重症化のリスクの高いスカウト・指導者への対応等について

(1) 医療的ケアを必要とするスカウト・指導者や基礎疾患等があるスカウト・指導者

医療的ケアを必要とするスカウト・指導者（以下、「医療的ケア対象者」という。）

の中には、呼吸の障害がある方もおり、重症化リスクが高い方も含まれていることから、医療的ケア対象者が在籍する団においては、主治医の見解を家族と確認の上、個別に活動の判断をします。その際、医療的ケア対象者が在籍する団においては、団での受入れ体制も含め、医療関係者にも相談します。

また、基礎疾患等があることにより重症化するリスクが高いスカウト・指導者（以下、「基礎疾患対象者」という。）についても、主治医の見解を家族と確認の上、活動の可否の判断をします。

(2) 保護者から感染が不安で休ませたいと相談があった場合

活動を実施するにあたり、隊で講じる感染症対策について十分説明するとともに、活動の方針についてご理解を得るよう努めてください。その上で、感染が不安で休ませたいと相談があった場合は、強要することなく休ませるようにしてください。

4. 指導者の感染症対策

指導者においては、スカウトと同様、「2. 基本的な感染症対策の実施」を参考に、感染症対策に取り組むほか、飛沫を飛ばさないよう、マスクを着用します。また、毎朝の検温や風邪症状の確認などの健康管理に取り組むとともに、風邪症状が見られる場合は、自宅で休養します。指導者が休みやすい環境を作ることも重要です。指導に当たっては、可能な限り他者との間隔を確保（おおむね1～2メートル）し、会話の際は、できるだけ真正面を避けるようにします。

リーダー会議等を行う際は、最少の人数にしぼること、換気をしつつ広い部屋で行うことなどの工夫や、全体で情報を共有する必要がある場合は、SNSを活用すること、また、オンライン会議システム等を活用することが考えられます。